

サム・ピッグだいかつやく

A・アトリー 作
神宮輝夫 訳
多田ヒロシ 画



アリソン・アトリー作

- ①チム・ラビットの
ぼうけん 石井桃子訳・中川宗弥画
- ②チム・ラビットの
おともだち 石井桃子訳・中川宗弥画
- ③サム・ピッグ
だいかつやく 神宮輝夫訳・多田ヒロシ画
- ④サム・ピッグ
おおそうどう 神宮輝夫訳・多田ヒロシ画

NDC 933 192 p 21 cm © 1967

チムとサムの本

サム・ピッグだいかつやく

一九六七年四月十五日初版発行
一九七六年十月二十日12版発行

訳者 神宮輝夫

発行者 株式会社 童心社

東京都新宿区三栄町二二
電話(三五七)四一八一
振替 東京七五五〇四

活版印刷 次賀印刷所

平版印刷 株式会社サン印刷所

製本 (株) 難波製本

サム・ピッグだいかつやく
アリソン・アトリー作
神宮輝夫訳・多田ヒロシ画

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会



もくじ

1 サム・ビッグのずぼん

9

2 サム・ビッグとかつこう時計

32

3 サム・ビッグのりんごどろぼう

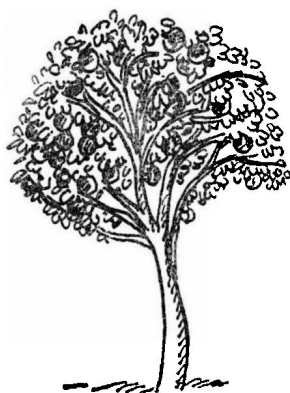
71

4 サムとかかし

120

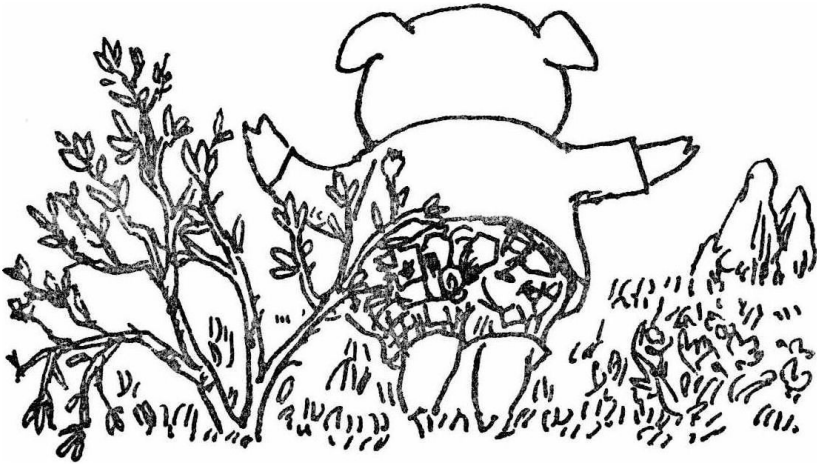
5 大きな家へいったサム

158

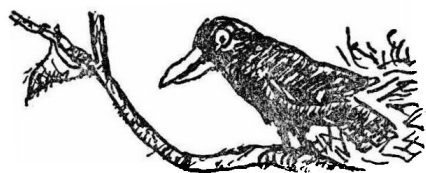




サム・ピッグのずぼん



サム・ピッグは、いつも ずぼんをだ
いじにしませんでした。野ばらのとげで
やぶいたり、はりえに。したのやぶに ひ
っかけたりしました。さんざしに すこ
し やぶりとられたり、とげとげのあざ
みの中なかにはいって 糸いとをぬかれたりしま
した。山やまのまきばのいわを すべりおり
て、おしりをすりきったり、いけがきを
くぐりぬけて あなをあけたりしました。
サムが どこにいたかは、やぶのとげ
やまがった木きのえだに ひっかかってい
る、ちえつくのずぼんのきれはしを見れ
ば、すぐに わかりました。



小鳥^{こどり}たちは、大^{おほ}よろこびで サムのずぼんのきれはしをひろい、それで すをつくりました。からすたちは、はでな三かくの小^こばたのような きれはしをひろって、に^にれの木^きのねぐらに ぶらさげました。ひ^ひわとほ^ほお^おじ^じろは、ずぼんの糸^{いと}とひつじの毛^けをまぜあわせて、すの中^{なか}にしきました。まるで、サムが、木^きやいけがきに家^{いえ}をもっているみんなに、家^{いえ}づくりのざいりようを よういして やったみたいでした。でも、ずぼんのきれだって そういつまでもありません。サムのずぼんも、もうだめになりかけていました。

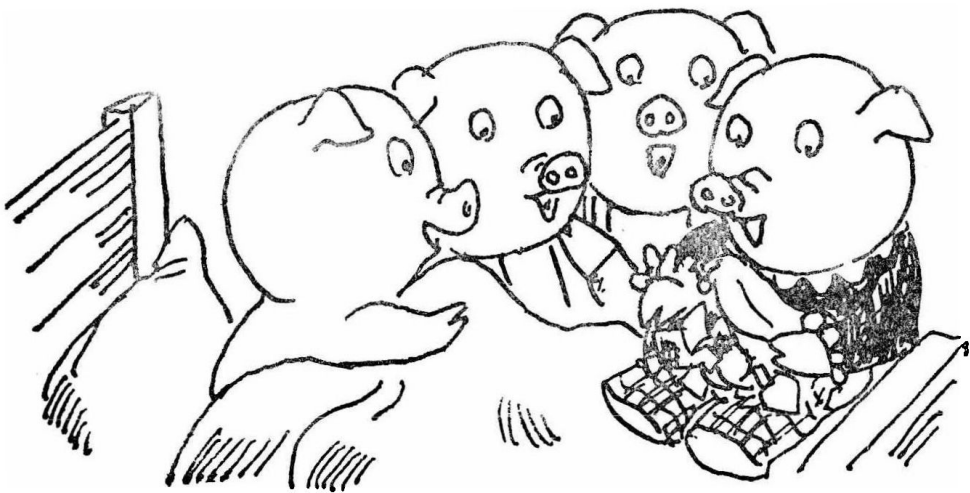
アンねえさんは、サムのずぼんのおしりとひさに つぎをあてました。りようわきにも つぎをあてました。つぎをあて、そのつぎのうえに またつぎをあてているうちに、とうとう、もとのずぼんのきれは、ぜんぜん なくなっしまいました。サムのずぼんは、たてじまのきれと、こうしじまのきれと、まだらもようのきれを、みどり色^{いろ}の糸^{いと}で、すぎあやぬいしたり、十字^{じゅうじ}ぬいした

りしたものになってしまいました。

「サムのずぼんは、いろいろなきれをつぎはぎしてつくった ふとんみたいだねえ。」 あるぼん、アンねえさんが、つくろいおわった、そのへんなずぼんを もちあげたのを見て、トムがいました。

「か・さ・さ・ぎ・み・た・い・に、いろん・な・色・が・ま・ざ・つ・て・る・な・あ。」と、ビルがいました。

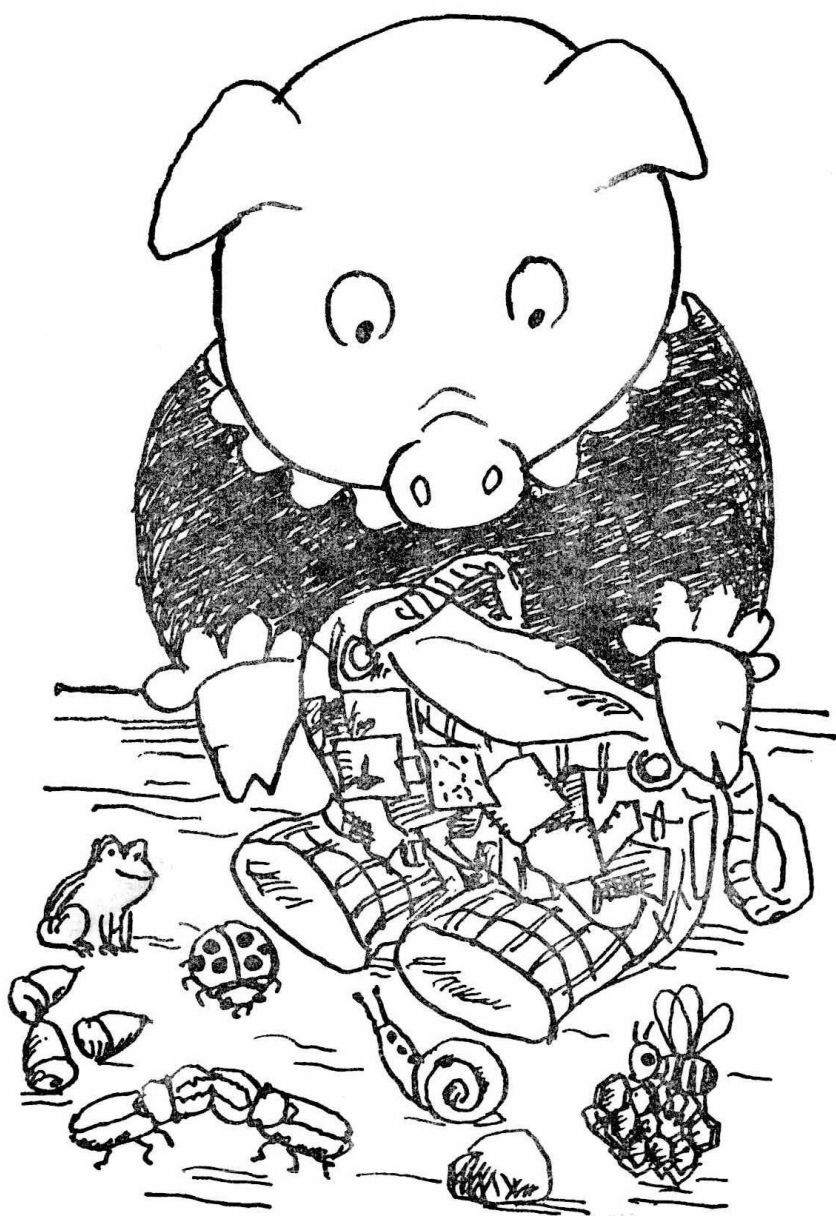
サムは、アンねえさんが、ずぼんをつくらしてくれるまで、車^{くるま}つきべつどで もうふにくるまって まっていました。からだをのりだしました。サムにはずぼん



が一ちゃくしかないので、つくろってもらうばんには、早くねなくてはなら
ないのです。

「ぼくは、つぎがあたってるずぼんが すきなんだ。」とサムがぶんぶんして
いいました。「ばかにしないでよ。ぼくは、その 古いずぼんと、すてきなつ
ぎあてが 大すきなんだ。アンがつくろってくれるたびに、びっくりするよう
なずぼんになるんだぞ。ほら、見てごらん！ 黒いつぎの上にも、き色いつ
ぎの上にも、青いつぎの上にも、みどり色のつぎが あたっているだろう。そ
れに、つぎの中には、かくれたぼけつとが たくさんあって、そこに、いろん
なものがしまっておけるんだ。つぎのぬい目がやぶけると、そこから ものを
いれるんだよ。」

「そうなのよ。」と、アンが かおをしめました。「今だって、もう これ
だけだったのよ。ほら、でんとうむし、みつばちとみつばちのす、びよんびよ
んはねる かえる、けんかしてる くわがたむし。いろんな石ころや どんぐり



やかたつむりは いわずもがなね。サムが ぶかっとうなもの、あたりまえよ。つぎの中なかに こんなものを いれておくんですもの。サム！ あなたまるでこぶだらけに見えるのよ！」

サムは、もうふの中なかでからだをまるくして、べつどがゆれるまでわらいました。アンは、まだ、いちぼんだいじなものを見みつけていないんです。いちばん大きいつぎの下したにかくしてあるものです。もし、見みつけたら——！

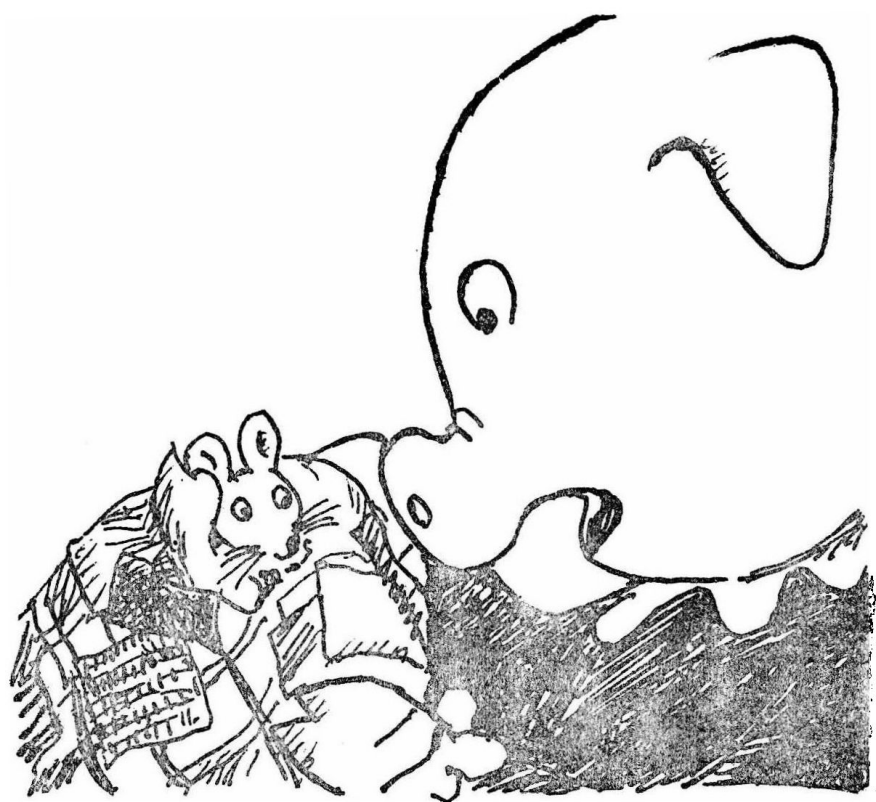
ちょうどそのとき、アンが、きゃつとさけんで、ずぼんをおとしました。

「わ、わたしをかんたわ！ あなたのずぼん、わたしをかんたわよ！」アンは大きな声こゑでいうと、かまれた手てをすいました。

「ずぼんが かみつくはずはないよ。」と、トムがいました。ところが、サムは もうふの中なかに もっともぐりこんで、ますますわらいました。

「なにがいるんだ、サム？」と、トムが きつい声こゑでたずねました。

「はくじようしろ！ ずぼんの中なかに、なににかくしてあるんだ？」



へんじはありませんでした、つぎあてのきれの中から、二つの耳と、きらきらひかる二つの目がでてきました。一ぴきの白ねずみが、小さなあたまをつきだしたのです。白ねずみは、目をまるくして アンを見つめ、サムのもうふをのぞきこんでから、ちよろちよろっと、てーぶるの足をかけおりて、ゆかのあなにはいってしまいました。